

質問

今後の地域医療のあり方は

町長

医療介護の連携体制を構築



内田 裕紀 議員

質問 奥出雲病院の現状は。

病院事務長 現在98床ある病床の利用率は72.4%、平均患者年齢は79.4歳、さらに自治体病院として新興感染症を想定した10床の病床数を確保している。救急患者数、訪問診療も増加傾向にあり、患者の年齢も年々高くなってきている。

質問 今年から第9期雲南圏域介護保険計画が始まっている。要支援、要介護の実数は960人で横ばいだ。平均年齢と認定率について。

健康福祉課長 平均年齢は88歳、認定率は19.4%だ。

質問 今後医療、介護両方のニーズを持った高齢者が増えてくる。今後の地域医療のあり方は。

町長 核となる奥出雲病院において入院入所、在宅療養と幅広く対応していく。また地域包括支援センターが主体となつて医療介護の連携により、ほぼ在宅、時々入院・入所の体制を構築していく。

質問 来年度から新たな多面的機能支払交付金事業が始まるが、担い手不足を見据え、各地区の協定ごとに異なる草刈り等の軽作業賃金の統一ができないか。

町長 単価を統一し農作業の一部を学生やシルバー人材センタ―に委託することは有用だ。

多面的事業の賃金統一

不登校の実態

質問 本町の不登校児童生徒の実態は。

一人でも不登校生徒が出ないようにやっていく。

教育長 小学校は全国を大きく下回っているが、中学校はほぼ同等だ。

質問 この対策は。

意見 教育とは一人一人の成長を見守ることであり、その環境を我々がいかに作り上げることができかが大切だと思う。

教育長 不登校児童生徒や保護者が抱く将来に向けての思いや願い、学校が感じる学習面や進路に向けた懸念を双方共有することが重要だ。

